

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284023

研究課題名(和文) 宮廷と美術に関する比較美術史学的研究

研究課題名(英文) Comparative Art Historical Studies on Court and Art

研究代表者

秋山 聡 (AKIYAMA, Akira)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：50293113

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：宝物が実質的に専ら美術で占められるようになる中近世における過程で、宮廷は極めて重要な役割を果たした。本研究では、宮廷における宝物コレクションが、美術史の歴史的展開に与えた影響の大きさを、日本、東洋、西洋それぞれの地域において、具体的事例に即して考察した。また、それらの研究成果を国内外で積極的に発信するとともに、収集した膨大な情報を活用して、国際的な比較美術史的研究発展のための基盤構築に資する数多の新知見を獲得した。

研究成果の概要(英文)：In the course of the process, in which art objects gradually dominate in the treasure collections during Middle Ages and Early Modern period, court played the most important role. In this research we dealt with, how the court collections had performed great influence on the historical development of art either in Japanese, East Asian and European regions. On the bases of gathered information of court collections of different regions, we found out many key-points, which will contribute to build a common platform for comparative art historical research on court arts.

研究分野：美術史

キーワード：日本美術史 東洋美術史 西洋美術史 宗教美術史 比較美術史 宮廷 宝物 コレクション

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、15, 16 世紀ドイツ美術を研究する過程で、聖遺物崇敬と美術の歴史的展開との関連性に興味を抱き、聖遺物と美術の関連性についての研究を行ってきた。そうした中で比較美術史的観点からの聖像研究にも興味を抱きさらに「像の生動化」についての研究や、美術と宝物の関連性についての比較美術史的研究を行なった。その結果、教会宝物とともに、宮廷宝物の重要性が浮かび上がり、本研究を計画するに至ったものである。

2. 研究の目的

宮廷と美術との関わりの諸相を、西洋美術史、日本美術史、東洋美術史の立場から、それぞれの研究蓄積を効果的に活用しながら、様々なファクターに着目した多角的アプローチによって浮かび上がらせる。さらに、それらの成果を基に、相互の研究を刺激し合うとともに比較対照を試みることによって宮廷と美術との関わりについての地域的特性と普遍的性質を明確にし、宮廷と美術に関する国際的な比較美術史的研究の共通基盤の形成に寄与する。

3. 研究の方法

研究組織を日本美術班(高岸、佐藤統括)、東洋美術班(板倉統括)、西洋美術班(秋山統括)および比較美術史班(秋山統括)に分け、それぞれに連携研究者、研究協力者からの助力を仰ぎながら、国内外での関連資料・作品調査を行なって研究を深化させるとともに、国内外での研究集会に参加したり、企画運営を行ない、研究成果発表と国内外の研究者との議論、情報・意見交換を通して、研究を発展させた。各地域研究の成果を比較美術史班において通覧し、有効な比較方法を検討した。

4. 研究成果

まず日本美術班は、高岸を中心に、天皇と美術との関わりについての研究を連携研究者の協力を得て展開した。2014年度にその内の六名が集合し、研究内容の打ち合わせを行い、2015年度からそれぞれ調査研究を推進した。2017年初頭から『天皇の美術』(全6巻、吉川弘文館)として刊行されつつあり、現時点で3冊が出版されている。第二巻(『治天のまなざし、王朝美の再構築』)は14世紀の美術史を天皇の関与を軸に考察したものと独自成果をもたらし、第五巻(『朝廷権威の復興と京都画壇』)では、近世の朝廷が美術の振興に果たした役割を見直し、画壇システムの実態を新たに明らかにした。第三巻(『乱世の王権と美術戦略』)では、北宋徽宗皇帝をまねて花鳥画を制作し、絵巻鑑賞に執心した後醍醐と花園という南北朝の天皇に着目し、14世紀美術史の形成においてこの二人が焦点を形成したことを浮

かび上がらせた。また、佐藤はまず『信貴山縁起』におけるフレームの扱いに着目し、その効果に意識的であるこの絵巻の発想が北宋の宮廷絵画に由来する可能性を指摘した。また平安時代の宮廷が生んだ代表的物語である『伊勢物語』と『源氏物語』が、後世の文化にとって大きな遺産となったことに注目し、近世においてかつての宮廷文化が次第に宮廷外に浸潤し新たな生命を獲得して生きながらえていく諸相を、岩佐又兵衛作品や『彦根屏風』等の具体的事例に即して明らかにした。加えて、18世紀の京都画壇に明末蘇州派の絵画体験が大きな影響を及ぼしていたことを明らかにした。これらの研究成果は、国内のみならず、国際的な関心を惹起し、アメリカ合衆国、ドイツ、ブラジル、台湾など国外でも口頭発表された。

東洋美術班は、まず中国における歴代宮廷コレクションについて精査した上で、故宮博物院のスタッフとの意見交換を行ない、その日本への影響の大きさについて、文献・画像資料を駆使して明らかにした。その上で、日本における蓮華王院宝蔵コレクションや東山御物等のコレクションが、どのように中国の影響を受けていたかを浮かび上がらせるとともに、双方間の相違をも具体的に指摘した。また、高麗・朝鮮王朝の宮廷コレクションについての調査を実施するとともに、韓国から鄭于澤、洪善杓両氏を招聘しての国際研究集会を開催し、意見交換につとめた。そうした過程で『文清』印山水図が発見された点は特筆に値する。この作品が確認されたことにより、朝鮮王朝の内府において、北宋の郭熙画の真作が収蔵され、本作が直接実見して制作された可能性が高いことが推測できるようになり、朝鮮王朝コレクションの復元的考察が進展することとなった。この研究成果は国際的に関心と呼び、アメリカ合衆国、韓国、台湾等においても口頭発表され、反響を呼んだ。

西洋美術班は、連携研究者および研究協力者からの助力を得つつ、まず欧州各地において文献・画像資料の実見調査を行なうことにより、宮廷美術に関する基礎的資料の収集に努めた。とりわけ中世の教会宝物と初期近世の宮廷宝物との間の類似と相違について、具体的作例に即して探求し、往々にして宗教的宝物が次第に世俗化し宮廷コレクションに収蔵されるようになる様相を、例えば典礼用金属製ストローの事例に即して、明らかにした。また、14, 15世紀ボヘミア王家における宮廷宝物と教会宝物との複雑な関係性について、近年の新たな研究動向を踏まえつつ、考察を展開し、神聖ローマ皇帝カール4世によるプラハの神聖都市化計画において聖遺物と聖画像・聖像が果たした重要な役割を浮かび上がらせることに成功した。また、教会宝物が初期近世において世俗化し、宮廷宝物に加えられる諸相を具体的事例に即して浮かび上がらせ、今日の博物館・美術館の原型

ともされるクンストカンマー/ヴンダーカンマーの成立に、王家宝物だけではなく、教会宝物のあり方が大きな影響を及ぼしていたことを明らかにし、ネーデルラント、フランス、ドイツ、ボヘミアにおける王家コレクションの形成を考える上で、美術概念だけではなく宝物概念を意識することの必要性を見出した。これらの成果は『西洋美術の歴史5』に発表されている。また女性君主の宮廷と美術についての研究の第一人者ダグマール・アイヒベルガー氏を招聘し、主として宮廷における結婚式と美術との関係について議論する機会を得、新知見を得ることができた。

比較美術史班は、地域別各班の成果を基に、研究協力者の助力を得て、将来的に国際的な比較美術史研究を活性化するために必要な基盤形成に資する新知見を収集しようとした。中でも、とりわけ有効性が確認されたのが、従来の西洋美術史研究から抽出された「聖遺物性」と「アイコン性」という対立概念の活用である。具体的には、王家の正当性を証明する権標であると同時に美術作品でもあるレガリアの比較研究が有益な成果をもたらした。神聖ローマ帝国のレガリアである帝国宝物と、日本のレガリアとしての三種の神器を、上記二概念を用いて、比較したところ、両者の性格の類似性と相違が極めて明瞭に浮かび上がった。前者が近代に至るまでは基本的に「聖遺物的性格」を一貫して保持しつつつけたのに対し、後者は当初同様の性格を有しながら、時代が下るにつれて「アイコン的性格」を獲得してゆくことが確認された。加えて、可視性/不可視性という点での相違も、両者を対照的に捉える上で有効であることがわかった。こうした研究成果は国際的な関心を集め、アラブ首長国連邦、ドイツ、イタリアなどにおいて招待講演により口頭発表されるとともに、ベルギーの出版社から刊行される論集にも英文で収載された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 14 件)

板倉聖哲、「朝鮮王朝前期・「文清」印山水図」、『國華』1456号、2017年、pp.38-43. 査読有

佐藤康宏、「物語絵の伝統を切断する - 岩佐又兵衛「梓弓」」、『美術史論叢』33号、2017年、pp.47-61. 査読無

京谷啓徳、「ゴンザーガ家と聖血の聖遺物」、『哲学年報』76号、2017年、pp.33-54. 査読無

秋山聰、「妻の力 - 初期近世ドイツにおける共同事業者としての画家夫妻をめぐって」、『西洋美術研究』19号、2016年、pp.163-174. 査読有

高岸輝、「室町土佐派と縁起絵巻の再生」、『聚美』19号、2016年、pp.9-31. 査読無

『聚美』19号、2016年、pp.9-31. 査読無

板倉聖哲、「梁楷『出山釈迦図』(東京国立博物館)をめぐる諸問題」、『佛教藝術』344号、2016年、pp.9-31. 査読有

高岸輝、「中世の絵師と絵巻」、『日本文学論究』75号、2016年、pp.6-9. 査読無

洪善杓、「朝鮮後期における宮廷絵画の中興および革新と宮廷画家の誕生」、『美術史論叢』32号、2016年、pp.17-33. 査読無

TAKAGISHI, Akira, The Reproduction of Engi and Memorial Offerings, *Japanese Journal of Religious Studies*, 42-1, 2016, pp.157-182. 査読有

高岸輝、「伝東常縁筆『古今和歌集』の見返し絵について」、『風：群馬県立土屋文明記念文学館紀要』2015年、pp.1-4. 査読無

SATO, Yasuhiro, Absence of Boundaries, Presence of Frames: Two or Three Things I know about Japanese Art, 『美術史論叢』31号、2015年、pp.71-100. 査読無

板倉聖哲、「東山御物の美 - 中国絵画を中心として」、『東山御物の美 - 足利将軍家の宝物』展図録、三井記念美術館、2014年、pp.134-139. 査読無

秋山聰ほか、「座談会報告：スペクタクルをめぐって」、『西洋美術研究』18号、2014年、pp.8-36. 査読無

秋山聰(監訳・解説)、太田泉フロランス(翻訳)、「1462年ローマにおける聖母被昇天の祝祭行列：二つのアイコンが出合う夜」(原文独語)、『西洋美術研究』18号、2014年、pp.37-53. 査読無

[学会発表](計 22 件)

AKIYAMA, Akira, Sanshu-no-jingi and Reichskleinodien: A Comparative Study on Imperial Regalia, Seminar, KHI Florenz, Firenze, Italy, 25.01.2017

ITAKURA, Masaaki, Chinese Landscape Painting and Goryeo Buddhist Imagery, Symposium: Goryeo Buddhist Painting, Freer and Sackler Galleries, Washington DC., U.S.A., 10.03.2017

秋山聰、「宮廷芸術家とは - クラーナ八の場合」、『美術史学会東支部大会クラーナ八展記念ワークショップ』、国立西洋美術館、台東区、東京都、2016年12月17日

板倉聖哲、「室町足利コレクションの表装」、『シンポジウム：表装と日本文化』、京都文化博物館、京都市、京都府、2016年12月18日

TAKAGISHI, Akira, Understanding Japanese Art History through the Lens of Kanmon Nikki, Keynote Lecture, Workshop: Things seen and heard in Medieval Japan, Heidelberg University, Heidelberg, Germany, 03.10.2016

板倉聖哲、「雪舟と明代画壇」、セミナー：雪舟入明再考、東京大学、文京区、東京都、2016年9月8日

板倉聖哲、「高麗・朝鮮王朝における李郭派の系譜」、セミナー：韓国美術文化特講 - 高麗・朝鮮王朝の美術への誘い、東京大学、文京区、東京都、2016年7月19日

AKIYAMA, Akira, On the Relic- and Iconic Character of the Sacred Objects: A Comparative Art History Perspective, Second Keynote Speech, Joint Conference: The Materiality of the Sacred in Medieval Japan and Europe, Heidelberg University, Heidelberg, Germany, 02.03.2016.

秋山聰、「レガリアの比較美術史」、研究集会『宮廷・宝物・美術』、九州大学、福岡市、福岡県、2016年2月19日

佐藤康宏、「物語絵を切断する」、研究集会『宮廷・宝物・美術』、九州大学、福岡市、福岡県、2016年2月19日

秋山聰、「聖地から学ぶもの - 比較美術史的考察」、研究集会『聖地と宝物』、九州大学、福岡市、福岡県、2016年2月21日

AKIYAMA, Akira, Relic or Icon? The Imperial Regalia of Japan and the Holy Roman Empire, International Workshop: The Nomadic Object: Early Modern Religious Art in Global Contact, New York University Abu Dhabi, Abu Dhabi, UEA, 20.01.2016

佐藤康宏、「明代蘇州派と18世紀京都画壇」、国際シンポジウム：『蘇州をめぐる諸問題』（招待講演）、大和文華館、奈良市、奈良県、2015年11月1日

秋山聰、「デューラーの失われた傑作をめぐると『ヘラー祭壇画』をめぐって」、明治学院大学（招待講演）、港区、東京都、2014年12月6日

板倉聖哲、「東山御物の徽宗：『桃鳩図』と『夏秋冬景山水図』」、三井記念美術館（招待講演）、中央区、東京都、2014年11月22日

板倉聖哲、「梁楷『出山釈迦図』をめぐる諸問題」、浙江大学主催国際シンポジウム：『宋画国際会議』（招待講演）、浙江大学、杭州市、浙江省、中華人民共和国、2014年10月31日

板倉聖哲、「鳥毛立女屏風と唐時代絵画」、奈良国立博物館（招待講演）、奈良市、奈良県、2014年10月25日

板倉聖哲、「足利将軍家所蔵の中国絵画：徽宗、梁楷、牧谿」、三井記念美術館（招待講演）、中央区、東京都、2014年10月18日

秋山聰、「宮廷と美術研究計画」、東大教授と台湾芸術史相關領域座談会、台湾大学、台北市、台湾、2014年9月22日

SATO, Yasuhiro, Absence of Boundaries, 東大教授代表団演講（招待講演）、台湾大学、台北市、台湾、2014年9月22日

21 板倉聖哲、「東山御物 足利将軍家が見た美の復元」、d-Labo スルガ銀行（招待講演）、港区、東京都、2014年9月18日

22 TAKAGISHI, Akira, Emaki Studies: Past, Present and Future, International Meeting of Researchers on Oriental Art: Orients: Widening Frontiers, Pinacoteca of San Paolo, San Paolo, Brazil, 22.05.2014.

〔図書〕（計13件）

AKIYAMA, Akira et al., *The Nomadic Object: Challenges of World for Early Modern Religious Art* (Series: Intersections), Brill, 2017 (in press)

秋山聰ほか、『「物質性」の人類学』、同成社、2017年、244pp. (pp.105-129: 「動く像」)

秋山聰ほか、『西洋美術の歴史5：ルネサンス』、中央公論新社、2017年、702pp.

高岸輝ほか、『絵巻マニア列伝』、サントリー美術館、2017年、239pp.

高岸輝ほか、『天皇の美術史3：乱世の王権と美術戦略 - 室町・戦国時代』、吉川弘文館、2017年、228pp.

伊藤大輔ほか、『天皇の美術史2：治天のまなざし、王朝美の再構築 - 鎌倉・南北朝時代』、吉川弘文館、2017年、204pp.

五十嵐公一ほか、『天皇の美術史5：朝廷権威の復興と京都画壇 - 江戸時代後期』、吉川弘文館、2017年、222pp.

AKIYAMA, Akira et al., *The Power of Line*, Hirmer, 2017, 240pp.

板倉聖哲ほか、『日本美術全集6：東アジアの中の日本美術』、小学館、2015年、295pp.

TAKAGISHI, Akira et al., *Between East and West: Reproductions in Art*, IRSA, 2014, 436pp.

秋山聰ほか、『人文知2：死者との対話』、東京大学出版会、2014年、240pp.

高岸輝ほか、『日本美術史』、美術出版社、2014年、379pp.

高岸輝ほか、『岩波講座日本歴史8：中世3』、岩波書店、2014年、314pp.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

秋山 聰 (AKIYAMA, Akira)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50293113

(2) 研究分担者

佐藤 康宏 (SATO, Yasuhiro)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：5041990

板倉 聖哲 (ITAKURA, Masaaki)

東京大学・東洋文化研究所/情報学環・教授

研究者番号：00242074

高岸 輝 (TAKAGISHI, Akira)

東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授

研究者番号：80416263

(3)連携研究者

芳賀 京子 (HAGA, Kyoko)

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：80421840

京谷 啓徳 (KYOTANI, Yoshinori)

九州大学・大学院人文科学研究院・准教授

研究者番号：70322063

増記 隆介 (MASUKI, Ryusuke)

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：10723380

塩谷 純 (SHIOYA, Jun)

東京文化財研究所・企画情報部・文化形成研究室長

研究者番号：90311159

伊藤 大輔 (ITO, Daisuke)

名古屋大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：00282541

塚本 鷹充 (TSUKAMOTO, Maromitsu)

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：00416265

藤崎 衛 (FUJISAKI, Mamoru)

茨城大学・教育学部・准教授

研究者番号：50503869

(4)研究協力者

太田泉フロランス (OTA, Izumi Florence)

東京大学・大学院人文社会系研究科・博士課程

海外研究協力者

ゲアハルト・ヴォルフ (Gerhard WOLF)

イタリア、フィレンツェ、ドイツ美術史研究所長

ミケーレ・バッチ (Michele BACCI)

スイス、フリブール大学・教授

ダグマール・アイヒベルガー (Dagmar EICHBERGER)

ドイツ、ハイデルベルク大学・員外教授

鄭于澤

韓国、東国大学校・教授

洪善杓

韓国、梨花女子大学校・名誉教授